



「学び」の質保証の再構築における 「短期大学生調査 (Tandaiseichosa)」の活用可能性について

○ 黄 海玉(短期大学基準協会)

山崎 慎一(桜美林大学)

堺 完 (大分大学)

宮里 翔大(桜美林大学大学院)

2019年11月9日(土)

日本教育制度学会第27回大会@宇都宮大学

はじめに

- 中央教育審議会による答申「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」(平成30 年11 月26 日)では、学修者本位の教育への転換や、大学教育の質に関する情報を把握・公表していくことの重要性を指摘するとともに、これらの情報を社会全体が効果的に活用することができるよう、全国的な学生調査や大学調査を通じて整理し、比較できるよう一覧化する機能を設けるべきと提言している。
- これを受け、一部大学の3年生を調査対象とする「全国学生調査(試行実施)」が文部科学省と国立教育政策研究所によって共同で実施されようとしている。
- そこで、本発表では、十数年の実績を有する「短期大学生調査(Tandaiseichosa)」の活用可能性について検証する。

学生調査について

－学生から見た各大学の教育の姿を可視化する大規模調査は**初の試み**－

概要

- 国が全国共通項目で、学びの主体である**学生目線**から大学教育や学びに関する調査を実施。
- 全大学の**学部生対象**に、**在学中の学び**の実態、**身に付けた力**、**学習経験**などについて網羅的に状況を把握。
- 大学が自ら教育改革に取り組み、**社会が理解しやすいような形で公表**し、学生の声を大学進学を目指す若者に届ける。

背景

- 大学教育に対する国民の満足度は低い（日本の学生は勉強していない、大学は学生を育てていない等）。
- **学生がどのような能力を身に付けているかについて、社会に対する説明や情報公表が不十分。**
- 特に、18歳人口が減少する中、学修者本位の教育への転換が一層問われるが、各大学が学びの主体である**学生目線からの学び**の状況を把握し、**社会に対する発信が課題。**

目的

- 全国的な学生調査により、**学修の主体である学生の目線から大学の教育力の発揮の実態**を把握。
- 大学進学希望者など社会が理解しやすいよう、**調査結果を原則大学・学部毎に公表。**
- 調査結果を踏まえ**各大学が自ら教育改善**を行う。
- 学生の目線から大学教育の実態を把握することで、国における**今後の政策立案の際のエビデンスとしても活用。**

学生調査（実施イメージ）

【調査対象】

- 学部3年生（6年課程は4年生）

【調査方法】

- Web（スマホ等）によるアンケート調査

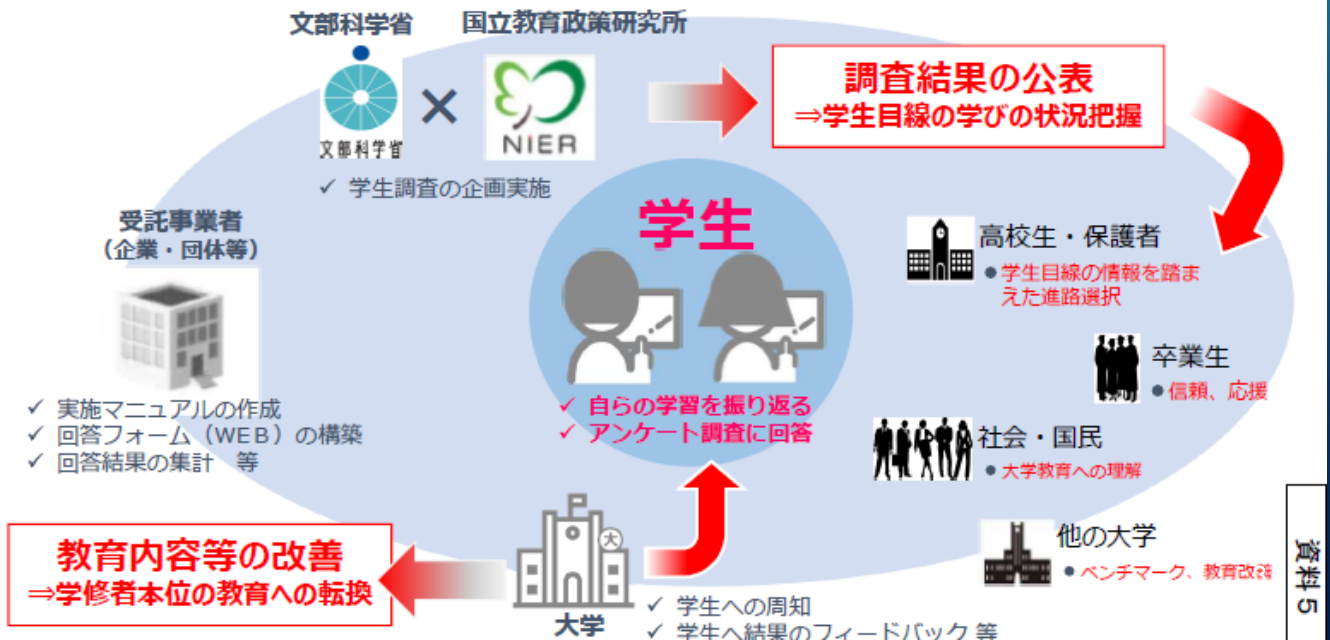
【調査項目（大問5問：10分程度で回答可）】

- 大学での授業や経験
- 学習時間
- 大学で受けた授業形態
- 大学教育で身に付けた知識や能力

【調査結果】

- 原則、大学・学部ごとの集計結果を公表
- 学生には調査結果をフィードバック

※令和元年度は一部の大学を対象に試行調査を実施



質問項目

回答の際は、この用紙を見ながら回答すると効率的です！

基本情報

問1 大学名：大学毎のURL・QRコードのため自動入力されます。
問2 学部名：あなたの在籍する学部を選択してください。

大学での授業・学習等について

問3 これまでに受けた授業では、次の項目はどれくらいありましたか。それぞれの項目について当てはまるものを選択してください。

項目	ほとんどなかった	あまりなかった	ある程度あった	よくあった
授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた。	1	2	3	4
理解がしやすいように教え方が工夫されていた。	1	2	3	4
教員以外の者（アシスタントなど）が配置されており、補助的な指導があった。	1	2	3	4
小テストやレポートなどの課題が出された。	1	2	3	4
適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却された。	1	2	3	4
グループワークやディスカッションの機会があった。	1	2	3	4
教員から意見を求められたり、質疑応答の機会があった。	1	2	3	4
主に英語で行われる授業（語学科目は除く）があった。	1	2	3	4

問4 大学に入ってから次のような経験はありましたか、その経験は有用でしたか。それぞれの項目について当てはまるものを選択してください。

項目	経験していない	有用ではなかった	有用だった	非常に有用だった
大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目	1	2	3	4
研究室やゼミでの少人数教育	1	2	3	4
（授業以外で）教員に質問したり、勉強の仕方を相談する機会	1	2	3	4
キャリアに関する科目、キャリアカウンセリング（就職や進学相談）	1	2	3	4
インターンシップ（5日以上もの）	1	2	3	4
海外留学（3か月以上のもの）	1	2	3	4
図書館やアクティブラーニングスペースを活用した学習	1	2	3	4

問5 授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間について、当てはまる時間数を選択してください。

項目	0時間	1-5時間	6-10時間	11-15時間	16-20時間	21-30時間	31時間以上
授業（実験・実習含む）への出席	1	2	3	4	5	6	7
予習・復習・課題など授業に関する学習	1	2	3	4	5	6	7
授業以外の学習	1	2	3	4	5	6	7
部活動/サークル活動	1	2	3	4	5	6	7
アルバイト/定職	1	2	3	4	5	6	7
就職活動	1	2	3	4	5	6	7
趣味/娯楽/交友	1	2	3	4	5	6	7



文部科学省



NIER



スマホでGo！
（回答は10分）

問6 これまでに受けた授業の形態について、全体が10割（足して10割）になるようお答えください。

大講義 （出席者数が 100人以上）	中講義 （出席者数が 50以上100人未満）	小講義 （出席者数が 50人未満）	演習・ゼミ	実験・実習
割合	割合	割合	割合	割合

問7 次の知識や能力を身に付けるために、大学教育は役に立っていると思いますか。それぞれの項目について当てはまるものを選択してください。

項目	役に立っていない	あまり役に立っていない	少し役に立っている	とても役に立っている
専門分野に関する知識・理解	1	2	3	4
将来の仕事に関連しうる知識・技能	1	2	3	4
文献・資料・データを収集・分析する力	1	2	3	4
論理的に文章を書く力	1	2	3	4
人に分かりやすく話す力	1	2	3	4
外国語の力	1	2	3	4
統計数理の知識・技能	1	2	3	4
問題を見つけ、解決方法を考える力	1	2	3	4
多様な人々と協働する力	1	2	3	4
幅広い知識、ものの見方	1	2	3	4
異なる文化に関する知識・理解	1	2	3	4

問8 ここまでの設問への回答にどのくらいの時間が必要でしたか。「①5分以内、②5分～10分以内、③10分以上」から当てはまるものを選択してください。

問9 大学での学びについて、ご意見などがあれば自由に記載してください。（自由記述：100字以内）

ご協力ありがとうございました。

【担当】
文部科学省高等教育局高等教育企画課高等教育政策室
国立教育政策研究所高等教育研究部

【検討課題】先行して実施している大学の学生調査との棲み分け

- ・国として実施する学生調査については、設問をシンプルかつ必要最低限なものに絞り込んだ上で、大学の学生調査とは別に実施するが、国の調査項目を大学の既存の調査項目に組み込み、国の調査項目の調査結果をデータ提出してもらうことも可とすべきではないか。

- ・もしくは、一定の条件を満たす場合は大学で実施しているもので代替可としてはどうか（その際、「一定の条件」をどのように考えるか。最低限、コンソーシアムなど複数大学間で共通要件の下に実施しているものを対象として、大学単独で実施しているものは除外すべきか。調査項目の類似性をどこまで求めるか。）

短期大学の現状

- 学校数 326校＝309校(私立)＋17校(公立)
- 在学生数 約11.30万人＝10.73万人(私立)＋0.57万人(公立)
- 短期大学生中の88.4%が女性

※短期大学基準協会の会員数(R1現在)

276校(全て私立)

短期大学生調査 (*Tandaiseichosa*)

• 調査の経緯

短期大学における主体的改革・改善に資する自己評価方法に関する調査研究の下、平成20年度(2008年)以来、近年の大学評価におけるアウトカム評価の重視の動向を受けて、短期大学における学習効果測定法の開発を行った。平成25年度(2013年)までは、同志社(Institutional Research Program)グループの研究開発と協力して短大生調査(JJCSS)を実施したが、第7回となる平成26年度からは、山田教授と研究協力者による研究開発で大幅に改良し、短期大学基準協会独自の短大生調査(*Tandaiseichosa*)(平成29度より「短期大学生調査(*Tandaiseichosa*)」と改称)として行っている。

短期大学生調査 (Tandaiseichosa)

• 調査の目的

本調査は、自校の強みや弱みを把握してのマーケティングやエンrollment・マネジメントへ利用可能な、短期大学の特質に即した精度の高い学習効果の測定を提供することにより、短期大学の自己点検・評価資料となること、さらには全体のデータの活用によって、短期大学士の教育としての充実やコミュニティカレッジ的特質などの情報発信を図り、短期大学についての学術研究の発展に貢献することを目的にしている。

短期大学生調査 (Tandaiseichosa)

- 調査対象

本調査への参加を希望する短期大学の学生

- 調査実施期間

9月～12月初旬

短期大学生調査 (Tandaiseichosa)

- 集計データ

- ◇個別短期大学の全体集計及び学科・専攻課程ごとの集計

- ◇参加校全体の集計

- ◇参加校が特定されない件数のある分野での分野別集計

短期大学生調査 (Tandaiseichosa)

- 調査項目について

この調査は、自己点検・評価などの各種評価、教学や学生支援の改善などの資料として活用できるよう、学生の学習(学修)行動や経験、その他の在学時の経験等、学習(学修)成果に関する設問や志望順位、入学方法などのアドミッションに関する設問などから構成されている。主な調査のコンセプトとしては、学生の入学から回答時までの学修行動や経験の実態とそれまでの成果についてどのような自己評価をしているかを測定することにある。

- 調査項目は全25問、回答箇所は109 ⇒ 詳細は、次のページ参照

短期大学生調査 (Tandaiseichosa)

調査項目

設問番号	設問内容	項目数
Q1	性別	1
Q2	年齢	1
Q3	学年	1
Q4	居住形態	1
Q5	通学時間	1
Q6	志望順位	1
Q7	内部進学者	1
Q8	入試区分	1
Q9	進学選択時の重要度	15
Q10	進学アスピレーション	1
Q11	授業における経験	17
Q12	1週間の活動時間	4
Q13	教員との関わり合い	4
Q14	読書経験(量)	2
Q15	課外活動の経験	6
Q16	成績状況	1
Q17	満足度(施設・学生サービス)	13
Q18	満足度(教育)	6
Q19	知識・能力の変化	22
Q20	将来のキャリア志望	1
Q21	学内の経済的援助の有無	1
Q22	学費等の経済的負担割合	1
Q23	学生生活の充実度	1
Q24	他者に対する短大推奨度	1
Q25	短大の総合評価	5
—	—	総数109

短期大学生調査 (Tandaiseichosa) の活用可能性について

・ 検証1 (調査項目の比較①)

問3 これまでに受けた授業では、次の項目はどれくらいありましたか。
それぞれの項目について当てはまるものを選択してください。

項目	ほとんど なかった	あまりな かった	ある程度 あった	よく あった
授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた。	1	2	3	4
理解がしやすいように教え方が工夫されていた。	1	2	3	4
教員以外の者（アシスタントなど）が配置されており、補助的な指導があった。	1	2	3	4
小テストやレポートなどの課題が出された。	1	2	3	4
適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却された。	1	2	3	4
グループワークやディスカッションの機会があった。	1	2	3	4
教員から意見を求められたり、質疑応答の機会があった。	1	2	3	4
主に英語で行われる授業（語学科目は除く）があった。	1	2	3	4

全国学生調査(試行実施)

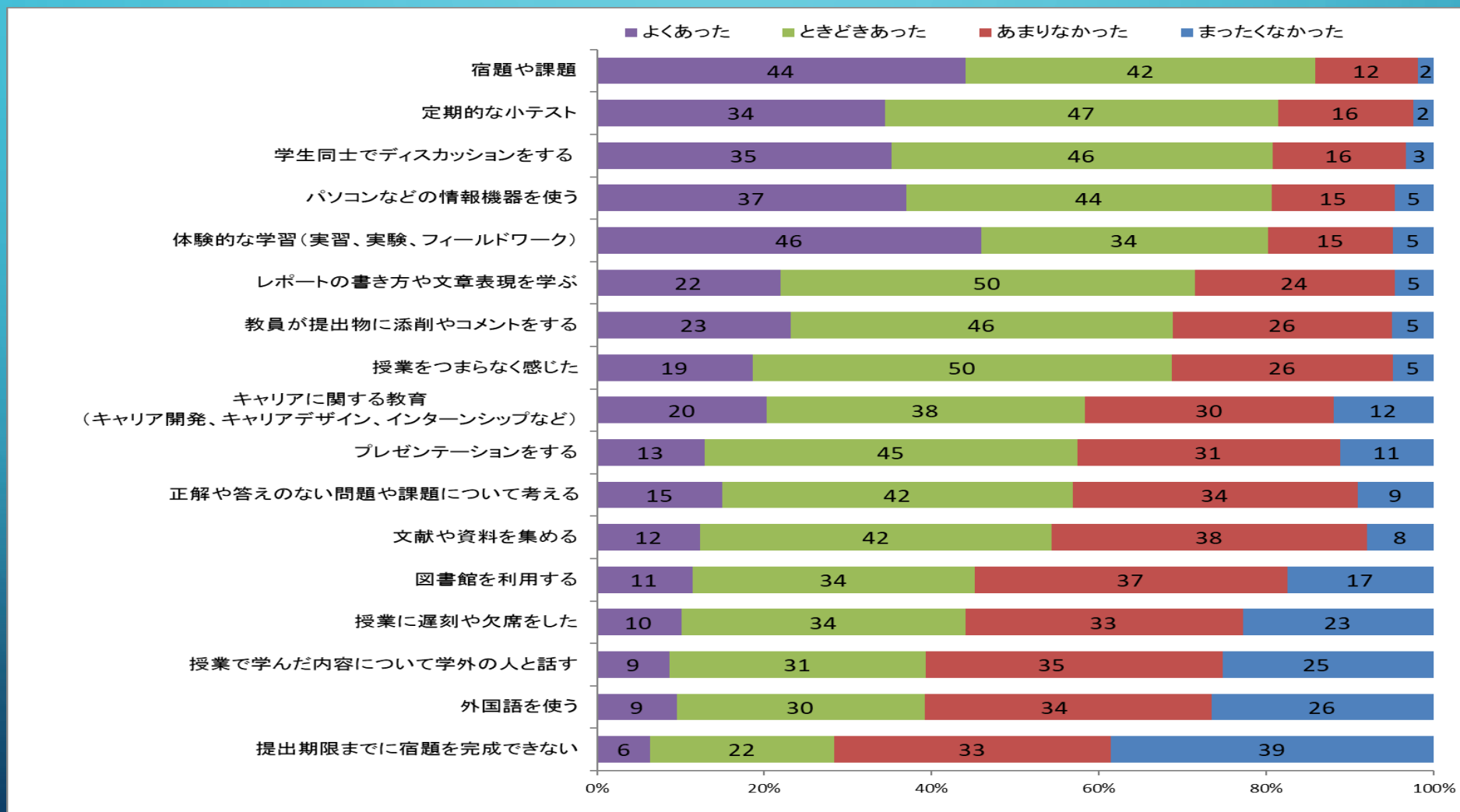
【11】 あなたが受講した授業では、次のようなことはどのくらいありましたか。
(それぞれ1つずつ選んでください)

		よく あった	ときどき あった	あまり なかった	まったく なかった
1.	プレゼンテーションをする	4	3	2	1
2.	学生同士でディスカッションをする	4	3	2	1
3.	教員が提出物に添削やコメントをする	4	3	2	1
4.	文献や資料を集める	4	3	2	1
5.	図書館を利用する	4	3	2	1
6.	体験的な学習（実習、実験、フィールドワーク）	4	3	2	1
7.	キャリアに関する教育（キャリア開発、キャリアデザイン、インターンシップなど）	4	3	2	1
8.	定期的な小テスト	4	3	2	1
9.	宿題や課題	4	3	2	1
10.	提出期限までに宿題を完成できない	4	3	2	1
11.	授業をつまらなく感じた	4	3	2	1
12.	授業に遅刻や欠席をした	4	3	2	1
13.	授業で学んだ内容について学外の人と話す	4	3	2	1
14.	正解や答えのない問題や課題について考える	4	3	2	1
15.	レポートの書き方や文章表現を学ぶ	4	3	2	1
16.	パソコンなどの情報機器を使う	4	3	2	1
17.	外国語を使う	4	3	2	1

短期大学生調査 (Tandaiseichosa)

短期大学生調査 (Tandaiseichosa) の活用可能性について

・検証1 (調査項目の比較①)



短期大学生調査 (Tandaiseichosa) の活用可能性について

・ 検証1 (調査項目の比較②)

問4 大学に入ってから次のような経験はありましたか、その経験は有用でしたか。それぞれの項目について当てはまるものを選択してください。

項目	経験していない	有用ではなかった	有用だった	非常に有用だった
大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目	1	2	3	4
研究室やゼミでの少人数教育	1	2	3	4
（授業以外で）教員に質問したり、勉強の仕方を相談する機会	1	2	3	4
キャリアに関する科目、キャリアカウンセリング（就職や進学相談）	1	2	3	4
インターンシップ（5日以上のもの）	1	2	3	4
海外留学（3か月以上のもの）	1	2	3	4
図書館やアクティブラーニングスペースを活用した学習	1	2	3	4

全国学生調査(試行実施)

〔13〕今の短大に入学して、先生との間で次のような機会はどのくらいありましたか。
（それぞれ1つずつ選んでください）

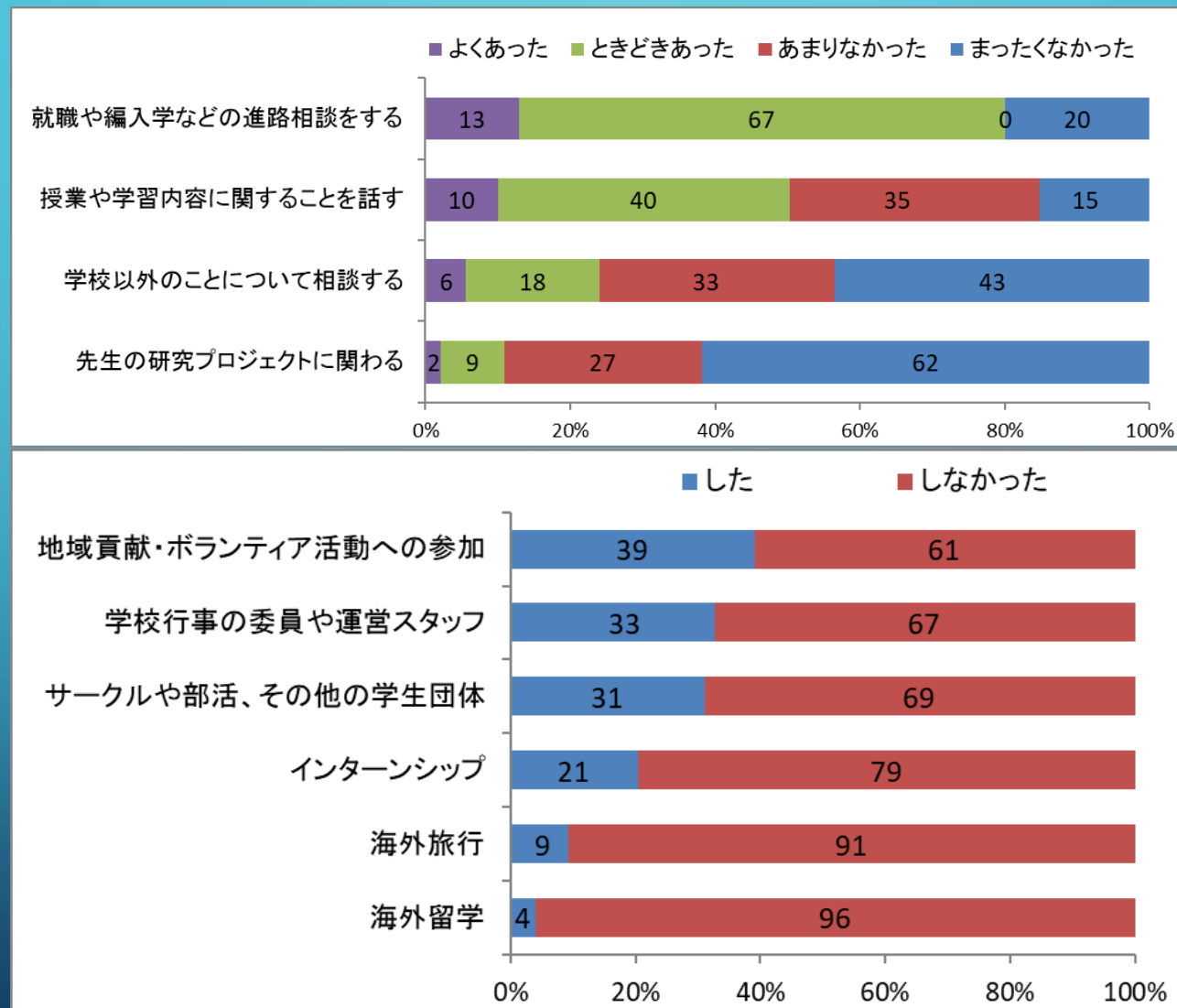
		よくあった	ときどきあった	あまりなかった	まったくなかった
1.	就職や編入学などの進路相談をする	4	3	2	1
2.	先生の研究プロジェクトに関わる	4	3	2	1
3.	授業や学習内容に関する話を話す	4	3	2	1
4.	学校以外のことについて相談する	4	3	2	1

〔15〕今の短大に入学して、次のような活動に参加したり体験したりしましたか。
（それぞれ1つずつ選んでください）

		した	しなかった
1.	サークルや部活、その他の学生団体	1	2
2.	学校行事の委員や運営スタッフ	1	2
3.	インターンシップ	1	2
4.	地域貢献・ボランティア活動への参加	1	2
5.	海外留学	1	2
6.	海外旅行	1	2

短期大学生調査 (Tandaiseichosa) の活用可能性について

● 検証1 (調査項目の比較②)



短期大学生調査 (Tandaiseichosa) の活用可能性について

・検証1 (調査項目の比較③)

問5 授業期間中の平均的な1週間(7日間)の生活時間について、当てはまる時間数を選択してください。

項目	0時間	1-5時間	6-10時間	11-15時間	16-20時間	21-30時間	31時間以上
授業(実験・実習含む)への出席	1	2	3	4	5	6	7
予習・復習・課題など授業に関する学習	1	2	3	4	5	6	7
授業以外の学習	1	2	3	4	5	6	7
部活動/サークル活動	1	2	3	4	5	6	7
アルバイト/定職	1	2	3	4	5	6	7
就職活動	1	2	3	4	5	6	7
趣味/娯楽/交友	1	2	3	4	5	6	7

全国学生調査(試行実施)

〔12〕あなたは今学期のふつうの1週間の中で、次の活動にどれくらい時間を費やしましたか。
(それぞれ1つずつ選んでください。なお、1.「授業を受けた時間」については下記※の
コマ数を参考にしてください。)

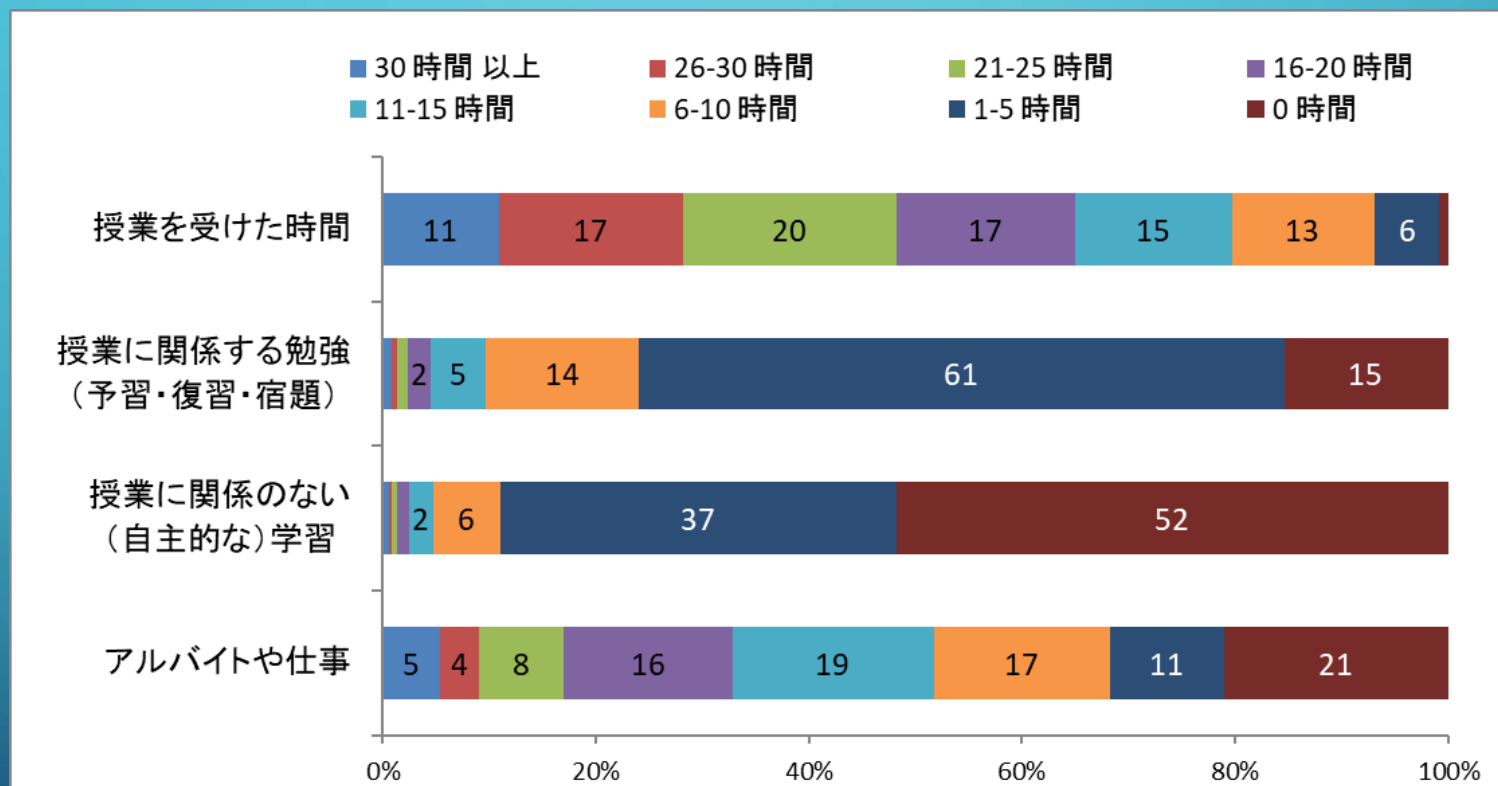
	0時間	1-5時間	6-10時間	11-15時間	16-20時間	21-25時間	26-30時間	30時間以上
1. 授業を受けた時間(※)	1	2	3	4	5	6	7	8
2. 授業に関係する勉強(予習・復習・宿題)	1	2	3	4	5	6	7	8
3. 授業に関係のない(自主的な)学習	1	2	3	4	5	6	7	8
4. アルバイトや仕事	1	2	3	4	5	6	7	8

※0時間→0コマ、1-5時間→1-3コマ、6-10時間→4-7コマ、11-15時間→8-10コマ、16-20時間→11-13コマ、21-25時間→14-17コマ、26-30時間→18-20コマ、30時間以上→21コマ以上

短期大学生調査 (Tandaiseichosa)

短期大学生調査 (Tandaiseichosa) の活用可能性について

• 検証1 (調査項目の比較③)



2018年度短期大学生調査 (Tandaiseichosa) 結果 (設問12)

短期大学生調査 (Tandaiseichosa) の活用可能性について

・検証1 (調査項目の比較④)

問7 次の知識や能力を身に付けるために、大学教育は役に立っていると思いますか。それぞれの項目について当てはまるものを選択してください。

項目	役に立っていない	あまり役に立っていない	少し役に立っている	とても役に立っている
専門分野に関する知識・理解	1	2	3	4
将来の仕事に関連する知識・技能	1	2	3	4
文献・資料・データを収集・分析する力	1	2	3	4
論理的に文章を書く力	1	2	3	4
人に分かりやすく話す力	1	2	3	4
外国語の力	1	2	3	4
統計数理の知識・技能	1	2	3	4
問題を見つけ、解決方法を考える力	1	2	3	4
多様な人々と協働する力	1	2	3	4
幅広い知識、ものの見方	1	2	3	4
異なる文化に関する知識・理解	1	2	3	4

全国学生調査(試行実施)

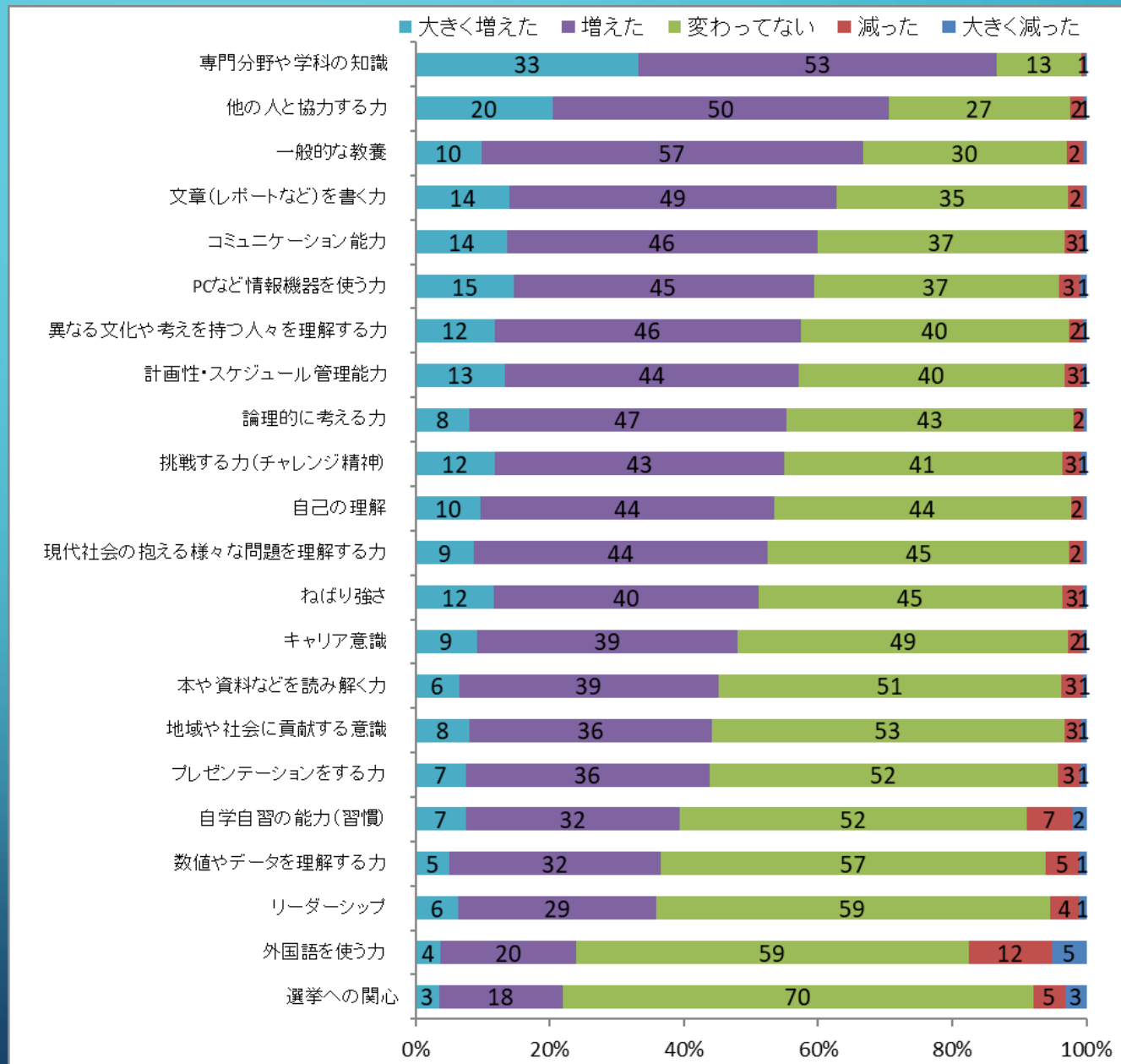
[19] 今の短大に入学して、あなたの能力や知識はどの程度変化(向上)しましたか。
(それぞれ1つずつ選んでください)

		大きく増えた	増えた	変わってない	減った	大きく減った
1.	一般的な教養	5	4	3	2	1
2.	専門分野や学科の知識	5	4	3	2	1
3.	論理的に考える力	5	4	3	2	1
4.	異なる文化や考えを持つ人々を理解する力	5	4	3	2	1
5.	リーダーシップ	5	4	3	2	1
6.	他の人と協力する力	5	4	3	2	1
7.	現代社会の抱える様々な問題を理解する力	5	4	3	2	1
8.	文章(レポートなど)を書く力	5	4	3	2	1
9.	本や資料などを読み解く力	5	4	3	2	1
10.	数値やデータを理解する力	5	4	3	2	1
11.	外国語を使う力	5	4	3	2	1
12.	コミュニケーション能力	5	4	3	2	1
13.	プレゼンテーションをする力	5	4	3	2	1
14.	PCなど情報機器を使う力	5	4	3	2	1
15.	自学自習の能力(習慣)	5	4	3	2	1
16.	挑戦する力(チャレンジ精神)	5	4	3	2	1
17.	ねばり強さ	5	4	3	2	1
18.	計画性・スケジュール管理能力	5	4	3	2	1
19.	キャリア意識	5	4	3	2	1
20.	自己の理解	5	4	3	2	1
21.	地域や社会に貢献する意識	5	4	3	2	1
22.	選挙への関心	5	4	3	2	1

短期大学生調査 (Tandaiseichosa)

短期大学生調査 (Tandaiseichosa) の活用可能性について

・検証1 (調査項目の比較④)



短期大学生調査 (Tandaiseichosa)の活用可能性について

- 検証2(調査実績)

	JJCSS調査 (2008～2013) 延べ参加数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
参加校数	88	37	52	53	52	61	79
新規校数	—	16	17	12	6	7	15
参加人数(回収人数/申込人数)	44043/	12,093/ 13,947	18,532/ 21,070	17,703/ 20,380	17,239/ 19,439	18,656/ 20,821	/ 23,173
回収率		87%	88%	87%	89%	90%	
備考		調査票改定	学科・専攻 別集計開始	分野別集計 開始		事業化開始	

11年間の経験 延べ参加短大数441校 延べ参加人数128,266人

短期大学生調査 (Tandaiseichosa) の活用可能性について

検証3 (実施体制)

- 調査実施に関する規程完備

 - 「短期大学生調査実施要綱」

 - 「短期大学生調査における情報保護及び調査結果の活用に関する規程」

- 委員会の構成

 - 学生調査の専門家集団 (国公立大学の教授、私立短期大学の教授、幼稚園園長等)

- 研究協力者

 - 国私立大学の若手研究者

短期大学生調査 (Tandaiseichosa) の活用可能性について

- 検証4 (調査結果の活用状況)
- 参加校における活用状況
 - 各短期大学におけるFD・SD委員会等各種委員会での活用
 - 自己点検・評価の資料 (認証評価受審時のエビデンス)
 - 学生募集の広報活動に活用
 - 学生の学習・生活支援の改善に活用
- 委員と研究協力者による学術研究への活用
 - 2008年～2018年まで、約40件の研究発表・研究論文
(一部は、短期大学基準協会ウェブサイト公表)
 - 科研費の申請・採択

短期大学生調査 (Tandaiseichosa) の活用可能性について

まとめ

- 短期大学生調査 (Tandaiseichosa) の調査項目は、全国学生調査 (試行版) の主要項目をほとんどカバーしている。
- 短期大学基準協会の会員のうち3割が参加しており、近年、増加傾向にある。
- 調査実施主体が、公的機関であることと、将来、認証評価への活用を考えると最適な機関であろう。
- 短期大学生調査 (Tandaiseichosa) の調査票の開発には、学生調査に関する研究の第一人者が係わっており、現在も若手研究者らによる、研究が続いている。
- 調査結果は学術研究に活用されており、短期大学の研究と情報発信への貢献が期待される。

短期大学生調査 (Tandaiseichosa) の活用可能性について

課題

- 調査の対象について(現「短期大学生調査」は参加校側で決定しているが、「全国学生調査(試行実施)」同様、特定の学年の参加は必須にすべきか。その際、1年生と2年生のどちらにすべきか)
- 調査項目について(現調査項目をどこまで「全国学生調査」にあわせるか。また、今後は各短大の個別のニーズを反映しうる調査項目の開発も不可欠)
- 調査結果の公表について(類似項目のみ公表でよいか。4年制大学同様、文部科学省のウェブサイトでよいか。それとも、今後の認証評価への活用を視野に協会ウェブサイト公表するか等)
- ウェブ調査システムの開発(データベースとしての運用、用途に合わせた自動の結果出力等)
- 調査結果の活用について(調査結果を考察するワークショップの実施等)
- 全国学生調査(試行実施)で残された課題について

参考資料・ウェブサイト

- 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」中央教育審議会、平成30年11月26日
- 「学生調査について」中央教育審議会大学分科会教学マネジメント第5回配布資料5、令和元年5月30日
- 『短期大学における学習効果測定法（短期大学生調査）の研究開発報告書』、一般財団法人短期大学基準協会調査研究委員会、平成30年3月
- 『短期大学学生に関する調査研究-2018年調査 全体集計結果報告』、一般財団法人短期大学基準協会、平成31年3月
- 「令和元年度学校基本調査（速報値）の公表について」、文部科学省報道資料、令和元年8月8日
- 一般財団法人短期大学基準協会 (<http://www.jaca.or.jp>)